

**歴史文化保存展示施設専門検討委員会 第 4 回活用部会
意見要旨《発言順》**

議題(1)歴史文化保存展示施設で行う活動について		
No.	内容	
1	質問	ターゲットの整理において、児童が中心となっているが、歴史文化の教育として、最も適している年代はどこか。児童なのか、生徒なのか。
	回答	ターゲットは児童ということで、小学生を想定している。ただ、3年生と6年生では学習内容等が大きく異なる。このことは、展示部会にも関わる議論であり、今後、全体会などで整理を進めたい。
2	意見	小学3年生は100年程前からの歴史を学び、6年生は縄文時代からの通史を学ぶ。これを思うと、ターゲットは6年生が適当と思う。以前の意見では、小学校5年生が良いとあったと思う。
3	意見	以前の意見については、解説などの表現内容や方法を小学4年生の女子児童を基準にすれば、大人も含めてわかりやすいものとなる、との内容であった。
4	質問	資料に「浜田の文化を感じさせる活動」とあるが、浜田の文化として、何を具体的に想定されているのか。
	回答	神楽が挙げられ、活動としては面作りなどを想定している。また、浜田の文化について、神楽以外のものがあれば、教示いただきたい。
5	意見	石州半紙などもある。
6	意見	浜田市の各地域には特徴的な歴史・文化があり、各地のまちづくりセンターが歴史や文化の学習の取り組みをしている。それらの資料を、事務局を通じて見ていただきたい。
7	意見	中学校の立場から。中学校はカリキュラムの都合上、施設を訪れての活動は難しい。このため、出前授業が有効な活動と考えられ、外ノ浦が題材として想定できる。歴史授業の導入で地域に触れることも可能と思っており、タブレットにより地域に触れることが現実的な活動内容と思われる。

8	意見	浜田の文化として、世界子ども美術館では、魚・中山間地域の祭り行事・林業などを取り上げたことがある。
9	意見	ターゲットに関しては、小学校高学年から中学生までが想定され、児童と生徒の間を表す良い表現があれば、施設の特徴をわかりやすくイメージできるものになるだろう。
10	意見	次の時代を創る若い人だとザックリ過ぎるか。10代前半を言い当てられる言葉があればいい。
11	意見	浜田の未来を担う人たちだと思う。
12	意見	中学生になると、より専門的な内容を求めるようになり、そういう意味では、未来を担う人と言える。
13	意見	このあたりはトータルメディアにも考えていただきたい。
14	意見	小学生では低学年と高学年では発達段階が違い、低学年は親とのつながりが大きいと思う。今までは学校との連携を主に議論してきたが、親との観点からも議論をお願いしたい。
15	意見	小学1・2年生は、ほとんど歴史の学習をしない。親と一緒にいなら、世界子ども美術館もあるので、和紙や神楽道具などを作る体験により文化が学べると思う。小学校低学年に関しては、特に歴史にこだわらなくてもいいと思う。
16	意見	社会教育とは仕組みを作ることである。学ぶ仕組みを作る、人が繋がる仕組みを作る、新しい活動が始まる仕掛けの仕組みを作る。これらをいかに博物館活動に取り入れられるかが重要である。
17	意見	神楽の幣などの小道具作りを小学校の総合的な学習で行ったことがある。子どもたちは喜んでいて。
18	意見	世界子ども美術館では、岩絵具を作り、絵を描く活動を実施したことがある。浜田らしさとは少し違うかもしれないが、橋本弘安先生が岩絵具の権威であることから実施したものである。浜田にゆかりのある人の業績についても、浜田の文化につながるのではないか。
19	意見	世界子ども美術館とのタイアップも特徴的ではないか。
20	質問	乳幼児や小学校低学年に対する活動として、視覚は勿論だが、聴覚や触覚に訴えていきたいと考えている。浜田のわらべ歌などについて教示をいただきたい。

	回答	浜田市誌や各町誌に掲載されているが、聴覚に訴える音源はほとんどない。施設の活動において、市民とともにこれらが収録できれば、活用の一つになると思う。
21	意見	様々な感覚に訴える活動はよいと思う。小・中学校には特別支援学級があり、合同学習会では色々なところへ出かけることがあるので、その活動でも活用できるのではないか。
22	意見	今後は超高齢化社会になる。これからを見据えれば、高齢者も大切なターゲットとなりうる。博物館においても認知症予防活動が実施されている事例もあり、ターゲットとして視野に入れるべき。
23	意見	大阪府豊中市の乳児に関する活動事例として、オンラインで実施したが、前半 40 分は市所蔵作品の美術鑑賞、後半 30 分は保育士による保育相談という内容。対象は 0 歳児と親のペアであり、この作品鑑賞と保育相談のセットのプログラムの評判が非常によかった。豊中市での鑑賞の対象は、絵画と焼物であったが、これを浜田のものに置き換えれば実施可能である。実施に関しては専門的な知識はあまり必要なく、その場の雰囲気・環境作りが大切である。この活動は比較的簡単に実施ができ、また売りになると思う。 高齢者についても、プログラムに参加されることも多いし、主催側としても場の雰囲気作りなどに貢献していただけたらと思う。
24	意見	世界子ども美術館とのタイアップ企画について。美術館のワークショップは、子どもの美的創造力を養うことが目的であり、歴史文化保存展示施設は知的な理解・関心を得ることと思われる。これらは目的が異なるため、それぞれの目的を理解したうえで、検討を加える必要がある。
25	質問	今まで中学校へのヒアリングが十分に出来ていなかった面があり、歴史の授業やタブレット利用などの様子が知りたい。
	回答	タブレットの活用については、これから検討される状況である。また総合的な学習の時間でも、地域の歴史に触れることは非常に少ない現状である。 歴史の授業では、地域の歴史を流れで押さえることはない。

		時代毎にトピックとして地域について触れる程度で、深めて学習はしない。そのため、出前授業が有効と思われ、生徒も関心を持つようになるだろう。
26	意見	新学習指導要領では、博物館利用・学習について強調されているので、今後に期待したい。
27	意見	資料の文言の「感じさせる活動」は、「感じる活動」としたほうが、使役的な意味合いがなくてよい。
28	意見	博物館におけるタブレット利用については、コロナ禍で博物館に人を呼び込めない現状にあるため、事態が落ち着いたら、引き続きリサーチを実施していきたい。
29	質問	様々な活動が掲げられているが、3人の職員体制でこれらの活動ができるのか。事務局の考えはどうか。
	回答	整備方針にあるように3人体制を考えている。活動に関しても、それぞれの活動のウェイトを考慮し、徐々に活動を充実させていくことなどを考えている。また美術館スタッフとの連携も想定している。
30	意見	<p>美術館との絡みも十分に検討して欲しい。前回までの議論で様々な良い意見があり、それらがすべてできれば素晴らしいが、3人体制ではとの懸念があった。今後、職員体制や予算、施設のスペースなどを考慮し、活動を精査していけば、1つか2つくらいが残る程度ではないか。検討内容を反映させるために職員体制や予算に変動があり得るかどうかは、極めて重要なことである。</p> <p>美術館との連携・人的支援についても、スペースの問題や美術館スタッフの現状からみると難しいのではないか。新施設のみではなく、美術館も含めた検討を進める必要がある。</p>
31	意見	<p>美術館も含めた全体のマネジメントに関しても、重要なテーマであろう。</p> <p>本日は貴重な意見を多くいただいた。</p>